

信を嘲けるわけにはならぬ。もし、之を嘲けるならば、男はよほど譯のわからぬものといはねばならぬ。

A woman when thinking by herself is always thinking of mischief.

婦人の獨り思に沈むや、常に害惡をのみ思ひつゝいくるなり。

よき家庭 うばら

よき家庭は少いものだといふお話は、いつも私共の承はる事でございますが、どうかお互に氣をつけてよく致して行きたい事と存じます。それにつきましまして、こゝに記したいと考へますのは、私の友達の家庭の事でございます。

世間では間々子供といふものは、學校や幼稚園で

こそ先生のいふことはよくきくが、内では中々そらゆかぬ、又そう行かぬのが至當であるといはれる方がありますが、なる程、家庭に於きましてはいろゝんな事情がありますから、いくらか實行がむづかしいといふこともございませうから、無論方法はちがへねばなりませんけれども、學校や幼稚園で出来る事が、内で出来る筈はないと考へてをりました。所が、今述べようといふ友達の家庭では、夫がまことに都合よく行つて居りましてかねて考へてをりましたことの證明が出来ましたことで誠に喜ばしく存しました。

そこで、先づ其家庭はどんなかと申しますと、今年十六になられる男のお子さんを始めとして、二男、三男、四男と末に三つになる女のお子とがおります。御主人は職務がありますが大概毎日内に

居られますから、此大勢のお子さんたちはまづ兩親の温かいお手で育てられることとございます。

そして月島に地所がございましていつも大勢揃つては船でそこへゆかれるといふことで。

先日私が参りました時は丁度いつもの様に大勢のお子さんを連れてその月島へ行かれようとする所で、御主人は私にも行かぬか、といふ、若し行くならば奥さんも行かれるとのこととあります。月島といふ所へは之迄一度も行たともありません、

又向うへ行つての遊びの有様も見たいと思ひましたから誘はれるまゝに私は喜んで同行を願ひました。そこで御主人は大勢に向つて「さあ、月島の用意」といふ命令を下されました、するとよ

だんから、ちやんと極めてあるものとみえまして其命令が下るとすぐ皆それぞれ自分のすべきとを

迅速にして仕舞つて、めい／＼權を一つづ、擔いで出て行かれました。すると御主人は片平に籠を持たれる、之は向ふで野菜を取つて入れる爲めなので、又奥さんはお菓子を用意などをされる、何

やかや致してやがて一丁斗もある河岸へ参りました。此のお住居は築地に近い所でございますから私が参りました頃には、早や先着のお子さん方は面白そうに、一生懸命船の支度にかゝつて九つに

なるお子迄が棧橋をかけるやら、何やらせつせと働らいてをられました。用意が萬端齊つた所で、尙暫く待つてをります中に、潮も満ちる、もうよろしいといふことで、私は奥さんと一所に其船に

乗りました。皆が乗り移つた所で、御父様の命令で船は動き始めました、一番長男の方が櫓をおす

役、次男、三男、四男の方々が左右に別れて權を

把て腕の限りと漕ぎ出す中にも御父様のお指揮で
 或者は休み或者は漕ぐなど一々命令通り其の上命
 令に従つて何事も一々熱心にされる様の可愛らし
 さはとても拙い筆では表はすことが出来ません、
 私は此時、此有様を見て不圖思ひ出しました、大
 小のちがひこそあれ海軍の方々が、長官の命令の
 下に種々の任務に就きて忠實に御務めになるのは
 全くこふいふ風だらうなど、思ひあはされました
 程で思はず感涙を催しました次第でございます。
 こんなことを思ひつけをります内に、船は月
 島へ着きまして、一同上陸致しました、その地
 所の内には親戚の方が住んでをられました、雞を澤
 山飼はれて居ます、そして此方々は相當なよい身
 分の方であります、皆様が御自身に雞の世話をし
 てをられます、私はこれにもまた感服致しました

さてお子さん方は、上陸して御挨拶がすむとろく
 に休もなさらずに畑へ飛んで出て、誰は草をとる
 誰は菜をつむ、誰は肥料をやるといふやうな工合
 に各自分れてそれぞれ仕事にかゝられました、
 まことに圓滿で、ひだ口をきいたり、いたづらを
 するやうなことは更になく、中々勉強して其仕事
 に付かれるのであります、私はあちこちへ行ても
 う何から何まで感心して見てをりましたが、やが
 て葎畑の側へ参りますと、九つになるお子が「お
 ばさん上げませう」といひながら一つの眞赤にな
 つた覆盆子の實を探つて下さいましたからありが
 たうといつて載りますと「此處から此處迄の間の
 赤いのなら、いくら探つてもよろしうございま
 す」と申されますから何故ですかと聞きました所
 が、其の畑は兄弟に分配されてゐるので、そこは

そのお子の領分だとのことでした。これを聞いてその小さい親切な心は毒の實よりも赤いことや、

又猥りに他人の領分を犯さないといい正直な所なとを考へ合はせまして、何や平やいろくの點から、今日一日私は無邪氣な神聖な丸で天の世界にでも遊んだ氣か致してをりましたが、餘り私の歸りが遅くなつてはならないからといふのでまた船に乗つてかへりました、船中のさまは始めの通りでございました、限りない愉快を得ましたことのでございました、

これは又、前に參つた時でしたが、皆で謠をして聞かして下さいましたが、大きい方から行儀能く順にならんで臆さずに眞面目にうたはれましたさまは、思ひ出しても可愛らしく存じます、併し強て教へられたのではなく、御父様のなさいますの

を段々に聞いて居られて覺えたのが多いといふことでございました。

かやうに勉強で、柔順で、又勇氣もあるといふことは餘程よく羨けなければ出來ぬこと、思ひます、唯私のみました所では遊ぶは勿論、仕事をするにも出來る丈夫供と一所にする、能く和してゆくといいふことに外ならない様でございました、とても親は親、子は子といふやうになり其の上、召遣の者などにまかせ勝などでは、よく育てるといふことは六ヶしいことのでございませう。

以上は前の月フレネル會席上に話したる大要なり。

家庭に於ける所感 (二)

長野縣長野市 飯塚忠次郎

(二) 家庭の二大別